

平成30年度 堺市障害者自立支援協議会 第7回 障害当事者部会
議事概要

日時	平成30年11月28日(水) 14:00~16:00
場所	堺市総合福祉会館 5階 第2研修室
出席者 (敬称略)	井坂、茅原、川崎、辻本、梶田、松本、丸野、北村、西野、川 淵
欠席者	石橋
傍聴	0名
事務局	【堺市障害施策推進課】足立、木村
事務局補助	【総合相談情報センター】濱、福井

1. 当事者交流会の振り返り

○資料1：参加状況・参加者感想より

(各委員より感想)

- ・タイムリーでいろんな話が聞けてよかった。参加人数が少なく、グループ内でも外部からの参加者が1名のみだったので、委員での意見交換のようになってしまった。その時の状況を非常に怖がっていたのがよくわかった。
- ・初めて参加したが、皆さん思っている薬の心配があるのかなという実感がある。避難所の確保、健常者であればすぐ行けるが、障害者がいけないという確保に課題があった。このメンバーでの延長線のような感じだ。
- ・猛暑、豪雨、台風、北海道の地震などがあったことを踏まえ、障害者はやはり近所との付き合いが必要ということ、どの場面で災害に遭うかわからないので、どこに避難すべきかを把握したうえでやっていく必要あり。避難所では障害者が見過ごされやすいので、避難所できちりとした意思表示やヘルプカードなど使う必要。精神障害者は薬がなくてはならない。余分には出してくれない。避難した場合でも余分には出せないと言われた。日頃から予備を持つようにしているが、薬が重要。
- ・自分が今どこにいるかを誰かに知ってもらえる事が大事。災害が大規模か小規模かによって支援してもらえる度合いが違う。薬も課題。
- ・初めて参加したが、4月に当事者部会に入ってからいろんな災害があり、初めて災害について考えるきっかけになったが、薬の確保、私の場合は食事の確保、偏食がひどいので、避難所の食事がとれなかったらどうしようと思った。その人によって必要な支援や必要なものが違うので、細かいことまで周りの人に理解してもらうのは難しい。
- ・障害によって困ることは変わってくるので、例えば私だったら車いすで入れるトイレが近くにあるか、どうやって寝たらいいかなどいろいろと問題があると思った。薬のことはとても大変だと感じた。あとは動物を飼っている人はペットをどうやって避難できるのか、別々になっていくのかなども話した。それぞれの障害にあった対策などきめ細やかに考えていかないといけないと感じた。

- どのテーブルでも内容は被る。交流会をやる必要があるのかを考える必要があるのでは。参加者も少なく、部会の委員に囲まれて、喋りづらいのでは。10年前の交流会の方がいっぱいいた。テーブルに4～5人はいた。場所が変わって部会の委員のみでやっても交流会といえるのか？ここ2～3年参加少ない。新しい発見は井坂委員とご近所だということがわかったこと。
- 今年初めて参加なので、今までの状況は分からないが、委員以外の参加者が非常に少ないと感じた。どういう形で告知をされているのかは分からないが、障害者団体に案内はだされているのか？ライトハウスなどに案内してくれたら、視覚障害の人が参加できたかも。参加していた聴覚障害の方はいろいろなことを教えてくれて学びがあった。もう一人は若いかたで不安をもっている様子で情報が入ってこないことが不安そうだった。その方は知的障害があったようだが、報告をするのを決めるのに、僕が言いたいことがあるといわれたので、報告をしてもらうことになったが、「僕が言うんですか？」といわれた。言いたいことをこちらで汲み取れず、反省点だった。情報弱者に対して対応が必要かと思った。
- いろいろと地震のことを話していたが、困ることがたくさんあって大変だと思った。

(アンケートの集計結果について)

【事務局】(事務局よりアンケート結果紹介)

- 「アンケート結果を踏まえて意見をいただきたい。」

【委員】

- 結局7名しか来なかった？参加人数が少ない。
- 健康福祉プラザにはチラシは置いていたのか？
- 働いている人や作業所に通っている人は平日だと参加できない人もいるのでは？
⇒土日にやってみてもいいかも。昔はやったことがある
- そもそもなぜ交流会を企画したか？
委員は毎月会い、意見交換ができるが、もうちょっと外の意見を聞きたいということで始まった。本当はもう少し人数を集めないといけない。今のままでは意味があるのかと思う。たまたま多くなって収拾つかなくなったこともあった。今回はたまたまだっのでは。
- 集客は今後の課題。ただ、土日の方が出やすいと思う。GHの人も平日は仕事などがあって来られない人も多い。
- 集客はもう少し時間をかけて考えた方がいいかもしれない。

(交流会で気が付いたこと)

【委員】

- 今年来た方に、来年度の交流会との時に通知を送るのはどうか？

【事務局】

- 住所を申込み時に書いていただいている方と教えたくない方もいる。
アンケートの時に次回の開催通知を希望するかをチェックする欄を作り、希望する方には案内するなどではできると思う。

2. これまでの振り返り（フリートーク）

- 部会には初めての参加なので、ついて行くまでも行けてないかと思う。全体像分かっていない。事務局と委員との関係もまだ十分に分かっていない。
- 新しい委員が入って雰囲気が変わったかと思う。交流会も含めて果たすべき役割は何やろうという感じで考えている。いろいろ課題はあるが、どこでどうつなげていけるのかなというのが正直あいまいなところもある。今年はとりあえず終わりなので、なんだかんだいいながら個人的には良かったかなと思う。
- 今年度、新しい委員の方が来られて、違った面から当事者部会が見られることになったことは良かったと思う。今年は台風など大変なことがあったので、その中で本当に障害者が健常者と同じ環境で防災についてもきちんと考えてもらっているのかとか考えた。差別解消法についてはいろんな議題を挙げてきたので、条例ができたがなかなか周知されることが困難なことだと思った。今年も相模原事件についてテーマにしてもらったが、来年にかけても差別解消法や自分たちに起こってくる65歳問題についてもみんなでも議論していきたい。
- 今年は前半いろんな勉強や地震や台風で大変だった。新しい委員とのコミュニケーションなどこれからも勉強していけたらいいと思う。
- 4月から参加し、皆さんの話を聞きながら、自分の障害以外で他の人や災害のことなど聞いて、自分の身の回りしか考えていなかったと思った。他の障害の方の意見も聞けて勉強になった。委員の方とコミュニケーションが取れて、色々な人と喋れて楽しかった。皆さんの個人的な話が聞けて勉強になった。
- 新しい委員が入って来られて、個性の塊みたいなのところがあったが、いろんな視点から意見が聞いてよかった。見た目健常者で中身が障害者だから気づくこともあり、当事者だから発信できることがあるのだろうが、出来ることがなく、今年も過ぎて行った。当事者交流会も何年か前の活気のある時を覚えているので、参加の声を掛けるなど発信したい。来年は骨折しないようにしたい。
- 今年振り返り、私は数年前までは健常者で、3年前から障害者になって、両方分かるという立場から参加させてもらった。当事者部会は残していきたい。防災のことも部会で話して、発信していきたいと思っている。
- 1年経つのが早くて、今年は3月に委員や事務局も退任され、どうなるかと思っていた。それでも3人の委員が入られてリフレッシュしたと思うし、古い人たちはそれなりにやっぱり新しい手本になるようにやっていこうと思ったりして、世代交代が上手くいったかと思う。当事者部会では東日本大震災から防災については取り上げてきたので、今回の地震の時は自分自身はあの時の話し合いが活きたなと思っている。それなりに蓄積が出来てきたのかと思う。サラメシという番組を見ていたが、防災食もすごい種類があって、防災食アドバイザーとして講演会などしている。そういう新しい情報も当事者部会で発信したい。

3. その他

(事務局からの報告)

- 2月のテーマ 65歳問題について
⇒ゲストを招いて勉強会を検討しているが、どういったことを聞きたいかを確認。
- 利用料について今だったら9300円だが、65歳になった途端に44,000円の負担金があがるということがとても大きな問題であるということ。
車いすの作製も65歳までだったら障害サービスでできたのが、65歳からはレンタルが可能なものは作れない。その辺がややこしくて心配なところ。あとは時間の組み方が今までと変わるのではないかという不安。

(委員より情報提供)

- 毎年南海バスの車いす研修をやってもらっているが、12月5日10時～12時南海バス本社で研修させてもらう。参加できる方がいらっしゃったら来てほしい。

次回 平成31年1月23日(水) 堺市総合福祉会館 5階第2研修室
テーマ「障害を理由に受けた差別やおかしな対応をされた事例の共有について」